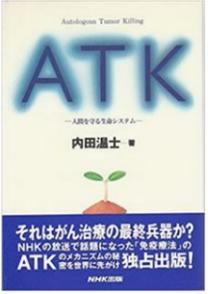
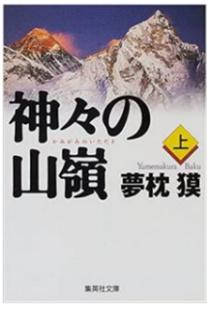


図書館からのお知らせ（先生方のオススメ本）

<p>・内田温士『ATK』（西川教頭先生オススメ）</p>  <p>新型コロナウイルスと生物との関係を理解することができ、いま世界で起きている事態の理解につながります。</p>	<p>・根路銘国昭『ウイルスで読み解く人類史』（西川教頭先生オススメ）</p>  <p>新型コロナウイルスが猛威を振るっています。今後どのようなことが起こるかを過去の歴史から推測することができる本です。</p>	<p>・多田富雄・萩原清文『好きになる免疫学』（西川教頭先生オススメ）</p>  <p>生物に備わっている免疫の仕組みをわかりやすく解説しています。ヒトの新型コロナウイルスと既知のウイルスとの反応の違いを理解できます。生物基礎の復習としても役立ちます。</p>	<p>・俵万智『恋する伊勢物語』（中尾拓先生オススメ）</p>  <p>『サラダ記念日』で有名な歌人・俵万智さんが『伊勢物語』をわかりやすく解説しています。古文に興味がある方は最初の一步にぜひ！</p>
<p>・村上由佳『天使の卵 エンジェルス・エッグ』（中尾拓先生オススメ）</p>  <p>女性作家の描く青年の心理描写が巧みです。王道の恋愛小説が好きな方におすすめ。</p>	<p>・正木 隆『スギの絵本』（尾崎先生オススメ）</p>  <p>神木として崇められる一方、身近に感じられるスギ。花粉症でスギを嫌になってしまった人にこそ読んでもらいたい。ちなみに私も花粉症です。</p>	<p>・小川洋子『博士の愛した数式』（尾崎先生オススメ）</p>  <p>「おすすめの本」といわれてまっ先に思いついたのが、この本です。数学の得意不得意は関係なく読めます。映画化もされています。</p>	<p>・前田典子『街道を歩く 第18号』（夏目先生オススメ）</p>  <p>田口高校の前を通っている伊那街道が詳しく書かれています。気軽に外出しにいい今、散歩気分です。</p>
<p>・朝日新聞特別報道部『プロメテウスの罠 1～9巻』（夏目先生オススメ）</p>  <p>東北大震災と福島原発事故に人々はどう立ち向かったのかまとめたシリーズ。5巻第26章「生徒はどこだ」は相馬高校のドキュメントで今、必読。</p>	<p>・東野圭吾『白夜行』（谷先生オススメ）</p>  <p>2人の主人公の19年間を描く長編小説。私は2回読みました。ドラマ化もされました。ぜひ！</p>	<p>・北村 薫『スキップ』（谷先生オススメ）</p>  <p>高2の主人公が突然25年後の世界に飛んでしまう。25年後に存在する娘の高校の国語教員として日々を過ごしていく。 “時と人”三部作の1作目。</p>	<p>・吉野 源三郎『君たちはどう生きるか』（谷先生オススメ）</p>  <p>これを読んで、君たちはどう生きるか。</p>
<p>・さくらももこ『またたび』（熊谷紀先生オススメ）</p>  <p>『ちびまる子ちゃん』で有名なさくらももこですが、実は文章もすごく面白いのを知っていますか？笑いながら読める海外旅行記です。手軽に現実逃避したい方はぜひ。</p>	<p>・夢枕獏『神々の山嶺』（熊谷紀先生オススメ）</p>  <p>世界最高峰の山、エヴェレストを舞台とした小説です。映画にもなりました。上下巻にわたり長いですが、臨場感があり引き込まれます。じっくり現実逃避したい方はぜひ。</p>	<p>・沢木耕太郎『深夜特急』（熊谷紀先生オススメ）</p>  <p>1970年代に、筆者がバスを乗り継いでユーラシア大陸を横断した記録です。「旅」をテーマにした作品で、これ以上のものはありません。机の上で世界旅行したい方はぜひ。</p>	<p>・角野光代『彼女のこんだて帖』（栗野先生オススメ）</p>  <p>OL・主婦・受験生など平凡な人々の日常料理にまつわる5ページ程の短編小説と物語に登場するレシピが掲載されています。小説を読み終えた後に見るレシピや写真に思わずワクワクする一冊です。</p>

※田口高校の図書室には入っていませんが…

・宮城谷正光『風は山河より』（尾崎先生オススメ） 奥三河を舞台にした歴史小説です。全5巻で、読み応えがあります。おすすめです。

・増田 奏『住まいの解剖図鑑』（栗野先生オススメ） 住居の配置・形の理由など、自らの住まいや生活に応じてどんな住まいが合っているのかを考えるヒントとなる一冊です。住居に関心のある人は、一度目を通すことをおすすめします。